

北游春夕泊津頭、愛海風光散客愁、雲水渺茫望窮處、青山一髮是蘇州、

愛州無物與吾親、林野風寒未見春、遙憶故園三月末、東台山下賞花人、

愛蘭爲客已三週、風雨淒々氣似秋、遣恨花期猶未到、尋春四月入威州、

牧田草暖見春晴、牛馬倦遊晚有聲、威海蘇山雲忽鎖、鐵車衝雨入英京、

汽笛聲々破曉烟、水長山遠望無邊、平原一色草如染、不是麥田渾牧田、

背山面海望悠々、月色潮聲入客樓、遙認波間星集散、燈臺光底佛英舟、

獅子岡頭一望平、江山何事動吾情、林風時有鳴枝葉、似聽往年兵馬聲、

街燈如畫伯林城、麥酒店頭杯幾傾、深夜往來人不斷、夢餘猶聽電車轟、

萬里長途一物無、唯看春草滿平蕪、車窓認得人烟密、汽笛聲中入露都、

滿目青山雨後新、花光麥色已殘春、壯游未脫風流癖、羅印河邊訪古人、

瑞山雨霽夏光清、驛路重々向佛京、桑野麥田看不盡、鐵車時破綠烟行、

巴里街頭夜色明、電燈光入樹陰清、滿城人動春如湧、酌月吟花到五更、

遲日暖風溪色濃、車窓一望洗塵胸、蘇山深處春猶淺、白雪懸天
 湮崑峰、
 客樓欄外大湖開、晨起先登百尺臺、波上茫茫看不見、汽聲獨破
 曉烟來、
 雷雨洗天開曉晴、鐵車窗外夏光清、麥田薯圃茫如海、身在綠烟
 堆裏行、
 行盡湖西幾驛亭、保羅城畔客車停、朝來暑氣如三伏、雷雨一過
 天地青、
 洛山高處路崔嵬、七月雪殘猶作堆、怪見前峰黑烟起、鐵車忽破
 白雲來、
 長程日夜鐵車奔、千里茫茫不見村、加水米山雄且大、風光自作
 別乾坤、

更に長篇を以て世界一周の順路を咏したるものあれば左に之を録す、
 立志曾辭文字關、凝眸先認對州山、紅日沈邊或吳越、白雲宿處
 是臺灣、數帶厦門山作浪、一條香港峽如囊、安南海上風波惡、
 印度洋中日月長、舟入亞丁山漸見、路過蘇士暑將無、客身猶在
 地中海、夢境已開歐米都、花開巴里城頭路、月照倫敦橋下船、
 獅子岡頭尋古跡、海牙街上訪前賢、伊國三冬草已青、瑞山八月
 雪猶白、吟裏坐花維納春、醉餘步月伯林夕、露北野如烟海濶、
 太西波似亂山堆、看過米山加水勝、歸舟更向日東來、

附 録

(一) 濠洲より哲學會に寄せたる書簡

濠洲の學街界に關しては今尙ほ幼稚なりと評せざるを得ず就中哲學文學に關しては最も幼稚を極め居申候

大學は「シドニー」「メルボルン」「アデレード」「ホバート」の四市に建設せられ「ブリスベーン」市にも新設の事に決定し居り各州に大學を設立する方針に候へ共其所謂大學即ち「ユニボルシティー」は我高等中學程度位のものに見受申候拙者の實際見聞せし大學はシドニー大學とメルボルン大學との二校に候「メルボルン」市には約十日間滞在せしに付教授にも會見し内部の情況をも聞及候が第一に文學や哲學の専門科無之唯

「アーツ」の科目の下にて論理學哲學を兼修するに過ぎず

アーツ科(古文學、歴史學、論理學及哲學、數學、近世語學)

右の諸學を一年を限り又は數年に跨りて履修する課程に候而して全科を修了するに三年間を要するのみに候其外教育學、心理學、倫理學は別に二年間の教育科あれば此方にて兼修する由に候之を要するに濠洲の教育制度にては初等小學より高等小學に入り高等小學在學中に試験によりて大學に入り三年間にて修了する程度なれば其所謂大學は我高等中學程度なること明了に候但し實際の實驗應用を主とする方面は比較的進み居る様に見受申候何分本洲は新開の殖民地にて各都會皆最近五十年乃至百年の間に建設せられたる市街なれば各州に大學の設立ある丈が實に非常の長足の進歩と申すべきものと存候殊に大學の建築の如きは我東京帝國大學以上の壯觀を極め各大學中に

壯大なる圖書館或は博物館を兼設せるが如きは仰歎せざるを得ず候へ共一般の人民の哲學思想に幼稚なるには是又驚き申候或る日某市の紳士によりて組織せられたる俱樂部に出席し數名の紳士と談話を交へたることありしが拙者が哲學専門なりと云ふを聞きて哲學とは如何なる學問なりやとの尋問を起すもの有之拙者は之に答へて人生の本源、宇宙の原始等を究明する學なりと云ひたれば一人は之を評して耶蘇教の創世史と同一の學問なりと云ひ一人は歴史學に同じと云ひ或は地質學と同様なりと云ふ異説相起り申候此一例によりて哲學の智識の程度如何を見るを得べしと存候何分本洲は土地廣く人民少く事業多くして人手足らず一方哩に二人平均數なれば目前の事業に逐はれて悠然として明窓淨几の下に靜坐沈思する餘暇無之從て人民の快活にしてよく活動し居るには實に感心仕候將來の發展に於て

も大に驚くべきものあらんと豫想する所に候

本洲の大學に就き奇異なる現象は女學生の多きの一事に候、メルボルン大學にては總計一千十三名の學生中百六十一人は女學生に候、シドニー大學にては一千四百名の學生中三百人は女學生なる由に聞及申候大學にかゝる女學生の多きは無類ならんと存候大學にても其點を得意とせるものに見受け申候而して女權は婦人が選舉權を有するにも拘らず米國ほどに盛ならざるやに相見え百般の事が英國三分米國七分位の程度にて英米の折衷と鑑察を下し申候(下略)

(二) 太西洋上より哲學會に寄せ たる書翰

其後南印度洋七千哩を横斷して南阿へ直航、船客は約三百人乗込み居

之れに船員二百人を加ふれば合計凡そ五百人となる其の中に濠洲人南阿人、英國人、蘇國人、愛蘭人の別あれども要するに大英人種のみである其の中に僧侶二人、醫師、軍人、教員、畫工、新聞記者各一人づゝあり其の他は農工商にして就中會社商店の番頭手代、鐵道土木の技師技手の人が最も多いやうに見受けたが其の過半は父子夫婦又は兄弟の如き一家眷族を引きまゝとめて乗船して居るから、つまり人口五百人の一村落が海中に浮んで居るやうのものです其の人たるや三等船客と申すもの、最下等の勞働者でなく中等社會及び下等中の上等に屬する方である其の多數の中には日本は赤道の南にあるか北にあるかと尋ねるものもあり濠洲と日本と孰が大なるやと問ふものもある位なれば知識の程度の低いものも加はりて居る先づ第一の奇談は船中にて乗客の姓を印刷したる表を一同に配付せられたが其の中に拙者の名前が

ドクトル井上とありたる爲めに日本の醫者なりと誤解せられ或る日隣室に一時の眩暈を起したる病人が起り拙者に向ひ、君は日本のドクトルといふを聞いたがチョット病人を診察してくれと頼まれた拙者は是れまで諸方を旅行して色々に誤解されたことあるも醫者と見られたことは今回が始めてである其時に拙者の名刺を示しドクトルには相違なけれどもドクトル、オブ、メヂシンにあらずしてドクトル、オブ、フィロソフィーであるから醫術とは全く關係がないといふて斷つた然るに名刺にはDr. Ph.と略記してある爲にドクトル、オブ、フィジックスと解し日本の物理博士と申した者もある、船客中には本職の醫者が一人居たが其姓をペーン(Pain)と稱して居る船中の評に一切のペーン引受所といふ義であらうと申すから拙者が日本語ではドクトルは毒を取るの意味であると助言した、さうすると一同がドクトルペーンは和英相

通して醫者相當の名であるとの評が起つた次に拙者の井上の字義は如何と尋ねられたるに對し英語にてアツボン、ゼー、ウルとても譯すべき字であると申したればドクトル、アブ、ツェルとの異名を付けられた又船客中に一人の猶太人が居つたが拙者が哲學者であるといふを聞きて哲學者中にスピノザと名くる人物があるが知つて居るか尋ねたからスピノザは哲學者中の泰斗にして拙者の平素崇拜して居る一人である先年態々和蘭海牙市へ立寄りて同氏の銅像を拜したともあると申したれば猶太人は得意になりて其スピノザは元來猶太人でありて猶太人中の大學者であると説明して聞かせしも面白かつた船中には各週日曜朝夕二回禮拜式があるが其主祭は船客中の僧侶二人が代り合て引受けることに相談が纏つた一人は英國宗(チャルチ、オブ、エングランド)、二人はプレスビテリアン宗であるが此二宗共に新教なれば兎も角も一致が出来る然るに舊教徒が船客の三分之一を占めて居るが新舊の間は中々一致が六ヶ敷い平素の交際には何等の隔てもないが日曜のソルピスの時に判然と旗色が分れ新教徒は悉く出席するも舊教徒は一人も之に加らぬ先きに拙者が濠洲シドニー客中に旅行の目的に關し尋問を受けたるに對し滯在中事情の許す限り宗教と教育との情態を視察したい者であると答へたれば其話が段々傳はりて同市發行の滑稽雜誌に英國宗の僧正と羅馬教の僧正と互に拳闘して居る圖を掲げ其中間に拙者が平座して傍觀しながらあきれて居る圖を副へてあつた、つまり濠洲にては國教宗が新教諸派を代表して舊教と斷えず論争して居るらしい信徒の數より云へば英國宗は百分四十、他の新教諸派は百分三十五、舊教は百分二十五の割合にして新教徒を合計すれば舊教の三倍に當るも信仰の度は舊教の方が強く寺院の建築

計すれば舊教の三倍に當るも信仰の度は舊教の方が強く寺院の建築

の如きは濠洲到る處、舊教は英國宗を凌ぐ程である。従て其兩宗の間に大葛藤の暗潮があるらしい。此の如く兩教徒が互に反目敵視して居るにも拘らず、其餘情を決して平常の社交上に及さず、新舊兩教の可否優劣は勿論、少しも信仰に關する話すらも言外せぬには實に感心した。或る日英皇戴冠式を奉迎するに付英國宗の僧侶がロヤルテ、即ち忠義といふ意味の演説をして一同に聴かしたが、其説明中に忠義は吾人の人生に處する正當の本務であるといひ、其例證に僕としては主人に對して盡くすべき義務がある子としては親に對して盡くすべき義務がある夫としては妻に對して盡くすべき義務がある之と同じく國民としては國王に對して盡くすべき義務がある是れ即ちロヤルテである。と申した此言をいひ換ふれば、夫は妻に對して忠義を盡さねばならぬといふことになる。聽者は皆適當の例證と思て居たやうなれども拙者

一人は夫が妻に對する本務と國民が國王に對する本務とを同視するは奇怪千萬と思ふ。た此一例によりても西洋と日本との人倫の説き方の相違が分る。又船客中の教員が日本の高等教育を受けたるものは耶蘇教を信じて居るか、と尋ねたから拙者は之に答へて我邦には耶蘇教に先ちて理化學や進化論が學界に輸入せられた爲に知識あるものはアグノスティック又はアッセイストに傾いて居ると申した。さうすると其教員は夫れは奇怪である。理化學や進化論は有神論と一致して居るに何故に日本人は斯る軌道外に出てたるか、といひ何にやら疑念を抱いて居るやうに見えた。彼等の教育社會ではどこまでも耶蘇教の有神論は理化學や進化論と一致せるものと信じて居るらしい。(下略)

(三) 南阿行の船中より『東洋哲學』へ 寄せたる風俗談

西洋の風俗にも長所と短所とがあり、我邦の習俗にも長短があるが、其要は彼れの長を取りて我短を補ふ様にせねばならぬ。今回濠洲行の船名は、郵船會社日光丸でありしが、其船長の話に、前回日本歸航の際上等船客濠洲人六十人乗込、其中に宗教家ありて日曜に禮拜式を行ひ、其席に集りたる賽錢は、日本の慈善事業に寄附するとの申出であつた。斯くして四回の日曜に集りたる總額は二百圓に達し、之を赤十字社へ寄附したとの話を聞いた。彼の國は金の安い國であるけれども一體に公共慈善に關する事柄には金を出す國風である。濠州より南阿へ渡る船中は、英人及濠洲人のみなりしが、總數小兒までを合すれば約三百人の

(七十四)



落村古士亞

(八十四)



園蔗甘哇布

(三) 南阿行の船中より「東洋哲學」へ 寄せたる風俗談

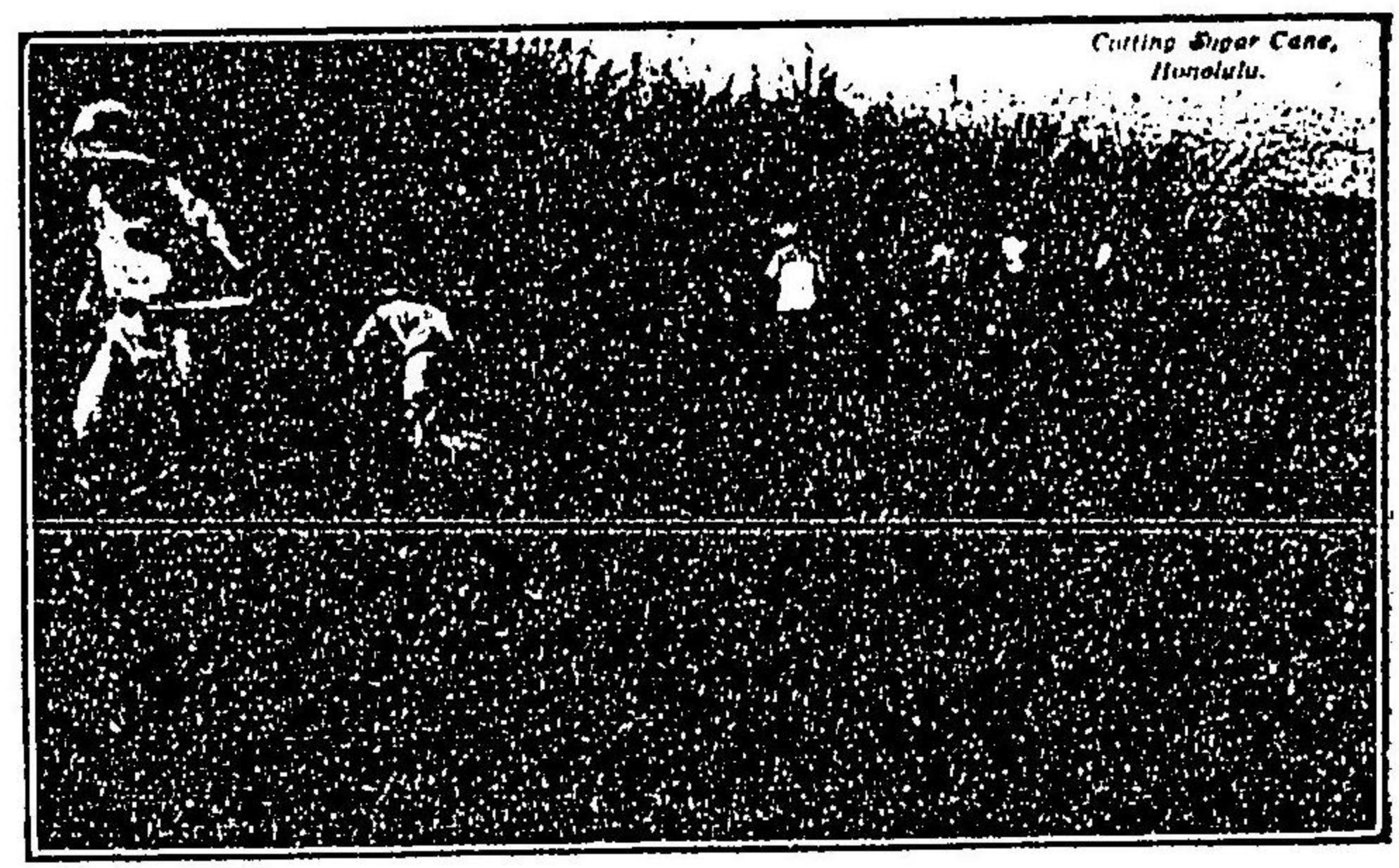
西洋の風俗にも長所と短所とがあり、我邦の習俗にも長短があるが、其要は彼れの長を取りて我短を補ふ様にせねばならぬ。今回濠洲行の船名は郵船會社日光丸でありしが、其船長の話に、前回日本歸航の際上等船客濠洲人六十人乗込、其中に宗教家ありて日曜に禮拜式を行ひ、其席に集りたる賽錢は、日本の慈善事業に寄附するとの申出であつた。斯くして四回の日曜に集りたる總額は二百圓に達し、之を赤十字社へ寄附したとの話を聞いた。彼の國は金の安い國であるけれども一體に公其慈善に關する事柄には金を出す國風である。濠洲より南阿へ渡る船中は、英人及濠洲人のみならずしが、總數小見まてを合すれば約三百人の

(七十四)



盛古土村落

(八十四)



布哇甘蔗園

乗客でありて、夫れが皆中等若くは中等以下の社會である。客船が已に三等乗客のみの設備なれば、上流の人の乗る筈はない。余が第一に感じたるは、よく活動する一事である。もとより船中のことなれば業務はないが、一刻も徒然として居ることなく、朝起きてより夜寝るまで遊戯遊動に従事して寸暇を餘さぬ程である。西洋の諺に、よく働きよく遊ぶとは此事であらう。又平日はカルタ遊びや色々の勝負事に狂するが如く熱中して居るが、今回は一度も金をかけて勝負を争ひたるを見ざりしは意外であつた。或は中等社會は上等社會より風儀の宜い故か、又濠洲に限りて然るかは余の判知し能はざる所である。又日曜日には一切勝負遊をなさず、閑讀靜話のみにて一日を送り、船中肅然として聲なき有様なるには感心した。此點に就きては上等社會よりも中等社會の方のよきことが分る。又當日は午前夜分兩度禮拜式があるが、舊教信者の外

は大抵參席謹聽して居る。又平日の運動にも成るべく多數共同して規律正しくすることを好む風があり、船中にて運動會を組織し、會長幹事を選定し、之に一任して日々の遊戯の種類と時間とを定めしむるやうにしてある。乗客中男子にして酒を吞まざるものは二三人位のもので、他は皆よく飲むも、過飲泥酔は一人もなく、喧嘩口論も一回も聞かざりしは賞讃すべき美風である。又晚食前には必ず顔を洗ひ、髪を梳り威儀を整へ、又毎朝必ず髯を剃るも美風である。室外に出てゝは如何に暑き日にてても決して肌を外に示さぬのもよき習慣である。子供も澤山乗込、互に氣儘に遊んで居るが、トント喧嘩せぬのは妙である。船中の食事は子供の時間と大人の時間とが違ふ。子供の方は三十分づゝ前に食事するさまりである。食事すめば別席にて、親達の食事の間機嫌よく遊んで居る。五六歳の幼兒が決して其間は親の許へ近らぬのは實に感心して

ある。以上は船中にて實視したる美風の一端を紹介までに掲げたる次第である。

(四) 南阿行より『新佛教』へ寄せたる

船中奇談

濠洲より南阿へ進航するに、旅費節減の爲に三等客船へ乗込み、メルボルン市を出航して、喜望峰に入港するまで海路七千哩、日數四週間の長途なれば、船中の奇談積んで山をなす程である。其中の四五の談片を此に掲げませう。汽船は一萬二千噸にして、壹等客船なれども、其設備には壹等二等なく、只三等のみである。故に其乗客は小兒までを合すれば凡三百人の多數なれども、皆中等社會、若くは其以下の白人と見て其中には僧侶もあり、軍人もあり、醫師もあり、教員もあれども、八九分通り

は農工商の人である。就中、商店の番頭、手代、土木の技師の人達が多いやうに見受けた。先づ船中の設備より申すに、日本の三等と違ひ、客室がありて、一人づつの寢臺が附いて居る。一室内に四人入れと、八人入れとの二通りに分れて居る。總計九十四室ありて、四百人を容るべき寢臺の設備がある。最初、日本より濠洲まで、郵船會社日光丸の壹等客に加はりたる慣習ある爲に、船内萬事に就て不潔に感じたが、一週間を經過したる後は、其感じがなくなつた。先づ一室内八人室に、洗面器、コップ、尿器各一箇より外備へてない。朝起るときには大混雜である。夜中は一箇の尿器に八人分をたくはへるから、是れ又大變だ。其器に蓋がないから、風雨にて外窓を開くことの出来ぬ場合には、随分臭氣鼻を襲ひ來る。室内の掃除は一週間一回であるが、南京蟲の居らざりしは幸であつた。寢臺は一室の四壁に上下二段になりて出來て居る。而して中央には、衣類をかけ

る折れ針が澤山付いてあるから、八人の衣服は悉く之にかけてある。恰も柳原の古着店の如くに見ゆるは奇だ。靴みがきも、洗濯も、皆船客自身でせなければならぬ。船の方では一切構はぬといふさまりである。故に船客は皆靴墨から、洗濯シャボンまで持參して乘て居るが、拙者は不慣の爲に其用意なく、少し閉口した。さて食事の時は、一層大混雜である。凡そ食事の時間五分前から、ソロ／＼食堂へつめかけ、鐘報を待ち構へて居る。一食卓に十八人づつ互に向ひ合せて對坐するが、給仕のボーイは一人である。然しボーイの熟練には感心する。スープや他の料理の皿に盛りたるものを片手に七個位載せて勝手場より運びて來るに、船の波にゆられて、我々は柱にたよらなくては歩き得ぬ處を皿一つ落さず、汁一滴こぼさずに運ぶのは、立派な曲藝である。幾杯かへても、澤山の皿を少しも間違へぬのも感心である。食事は毎回二品位のもので一品を何

返るかばかりしても差支ない。拙者などは極小食の方で、他の客は二倍位儘かにつめこむにも驚いた。日曜日の晩食に限りて、果物が出るが、早く取らぬと直ぐになくなつてしまふ。ジャガタラ芋は三度の食事毎に卓上に積である。毎日朝から晩まで、此芋の皮計りむく役目のボーイが居る。其速かなること、一分間に二十個の大芋の皮をむくこと容易である。是れは芋むきボーイとでも呼ぶであらう。お茶又は珈琲は朝食の時のみ差出し、晝食及晩食には一切差出さぬ。そこで乗客が皆、茶器、茶菓、紅茶、珈琲、コーコー、チョコレート等、澤山持参して載つて居る。午後三時になると、各々己れの室より茶菓茶器を携へ來りて、食堂に集り、互に己れの菓子を他の者に配付して、互にモテナシをする有様は、我邦の花見か遊山に、各々辨當を持参して、互に配付しあふと同一である。又他の客を招きて、己れの茶を飲ましむることも時々ある。拙者は右やうのことは全

く知らざる爲に、何んにも準備せずに乗船せしは、今回旅行の一大失策であつた。乗客の衣服には、何等の制限なく勝手次第なれば、十人十色である。婦人の寝巻に、日本服を着し居たるもの二人見受けた。カラをつけて居るものは一割位でありて、而も其一割の九分通りはゴム製カラである。食堂の外に喫煙室と讀書室があるが、讀書室は女子の占領、喫煙室は男子の専有の姿になつて居る。其外甲板の上は男女共同の遊び場である。室内の喫煙は非常に嚴重に取締をなし、若し其禁を犯すものあるときは英國の刑法に照し、十圓の罰金か又は一ヶ月の禁錮に處する。ことを揭示してあるが、甲板上にタンツバを吐くことの禁制がない爲に、タンをはき散らす、其下に子供が寝たり、コロゲたりして居るのには、感心が出来ぬ。中には子供が甲板の上に小便して居るものがあるが、それを見て叱りもせぬのは、奇怪である。入浴は勝手に出来るやうになつて居

るが、十分より長かるべからず、の規則であつて、着物をぬいだりきたりするに、五分かゝるから、實際の入浴時間は五分以内である。故に垢を落とす時間がない。腰掛はすべて板敷であつた。船中、一個の蒲團附又はトウ附の椅子腰掛のなきには痔持の拙者は閉口した。度々乗慣れたる人は自分用の椅子を持參して居る。食事は初はマツイやうに感じたれども後にはオイシクなり、就中、スープは、色々の餘りものを入れて煮出すとみえて、百味のおぢを持って居るから非常にオイシク、毎度二杯づゝ傾けた。肉は餘り大切りにて拙者の如き齒の弱いものには閉口であつた。夫れから毎日、晝夜かけて、遊技會、餘興會がありて、中々賑かである。晝間は午前午後共に、甲板上で遊技の競争がある。夜に入れば食事にて餘興が始まる。日曜日の外は一日も休みがない。拙者などは、無藝であるから、約三十日の間傍觀して居たが、晝間は毎日、學校の運動會に招かれたと同

様で、種々の競走を見た其中で最もおかしく感じたるは、人が鶏の眞似して、闘うのと、猿の泳ぐ眞似をして、競技したのである。其外の異風の競走は我邦の運動會にて見たものと別に變らない。競走の道具は盡く船中に具へてあるから、何んでも出来る。只一つ我邦にて見るべからざるものは、男が馬になり、女が騎手になりて競走したる一時である。男は馬の如く、女を背上にのせながら、四足にて走りて競争するが、如何にも奇觀であつた。夜は餘興會として、種々の隠し藝をする。恰も寄席を見るやうである。競走、競技、すべて賞與を與へることにさまつて居るから、子供まで熱心になつて競争する。其賞與金は時々募集するが各々競うて出金するは妙だ。拙者も日本を代表して、金壹磅(金十圓)奮發して寄附した。次に婦人の權力に就きて一例を擧ぐるに、船客中に、生れて三四ヶ月位の赤兒をつれて、夫婦共に乗船したるものがある。毎日、亭主は其赤兒を

或は抱き、或は小さき行李に入れて、介抱して居るに、妻は勝手に、他の人々とカルタ遊びをして、楽しんで居るなどは、我邦に於て見るべからざる現象である。又夫婦連の中には、他の者と遊ばずして、終日夫婦同志のみにて、將棋や、カルタを樂みて居るものもある。又た婦人而も老婦人が男子と共に甲板にて、繩飛びをして遊んだり、男子のする運動は、女子も大抵之に加はりて競争して居る。風俗の相違は奇態なものである、先づ船中の奇談は此にてとめておきまじやう。

明治四十五年三月六日印刷
 明治四十五年三月十日發行

(定價金九拾錢)

著者 井上圓了

發行者 高島大圓
東京市小石川區原町六番地

印刷者 佐久間衡治
東京市京橋區西紺屋町廿七番地

印刷所 株式會社 秀英舍
東京市京橋區西紺屋町廿七番地



發行所

東京市小石川區原町六番地
 振替口座東京一五六八六番
 電話番町 二六〇八番

丙午出版社

文學博士 三宅雄二郎先生著

●**訂偉人の跡** 定價金八圓 郵税金八錢

古今東西の偉人数十名を捕へ其の時代を語り其の性格を論じ其の功過を明にす觀察警拔にして行文微妙今の偉人の眼に映じたる古の偉人の真面目は如何にして其に活動す人若し偉人とは如何なる者か偉人は如何にして修養したるか偉人は如何なる事業を爲せしか偉人は死後に何を遺せしか社會は如何に偉人の死を觀しか偉人は知らむと欲せば其は此の偉人の偉著に問へ

京都帝國大學文科 松本文三郎先生同並序
大學長文學博士 京都帝國大學文科 大學副手文學士 羽瀨了齋先生著

●**釋尊の研究** 定價金八圓 郵税金八錢

本書を釋尊以前の婆羅門教の理想に起して釋尊當時の印度諸學派の狀態より進んで釋尊の根本思想に就き及び以て釋尊の世界觀人生觀生死問題の解決及解脱の方法を明にし更に釋尊の涅槃に移りこゝに著者の全力を傾倒して時に涅槃の意圖を解し具に東西學者の論議を破る誠ニ教界及學界に於ける尊重すべき一大新研究なりと稱すべし殊に松本博士は嚴密に校閲の勞を執りて研究上の責任を分つ本書の權威以て知るべきにあらずや

帝國大學教授 文學博士 高橋順次郎先生著

●**國民と宗教** 定價金七十錢 郵税金八錢

本書は國民と宗教との關係を述べたる論文に非ずして著者が該博なる學識と深厚なる同情とを傾注して日本人が國民的生活の理想と宗教的生活の理想とを詳説せられたる新著也苟も日本の國民たる者日本の宗教家たる者は一讀せざるべからざる佳書たるのみならず行文は通俗平明なる講話體なれば又以て演説講義の好模範たるべし◎附録として研究上修養上極めて重要な論文十編を收む此は實に學界及教界の珍たり

前外務大臣 伯爵林 實閣下序
東北大學總長 澤柳政太郎先生序
機所 干河岸實一先生著

●**修養史譚** 定價金八圓 郵税金八錢

林伯爵曰く「此の書を讀くに古今東西の史乘より異世同轍の事實二百對を擧げたる者にして教師これを引用ば以て講話の資を得べく父母これを讀まば以て庭訓の料たらむ」と
澤柳東北大學長曰く「道徳上の實行を期するには先づ之を實行せむとの意志を起さしめるとが必要であるそれには人の感興を惹くべき實例を示すのが最もよいしかしその實例を示さうとなると適當なる者が極めて少ない本書の著者は博覽強記能く適當なる者を見極めてりて其の數頗る多く修養教授上の材料として有益なる書めらるるを覺ゆ」と

文學博士 法學博士 男爵 加藤弘之先生著

●**迷想的宇宙觀** 定價金七十錢 郵税金八錢

高等師範學校講師 巨理章三郎先生著
哲人王陽明もまた凡人吾等の如く人生問題に觸れて幾多の煩悶を垂ねたりしなり或は劍に杖つて跡々の武勳を建てむとし或は筆を揮つて噴々の文名を馳せむとし或は竹筴に攀ぢて功名富貴に飽かむとし或は聖賢を學んで天下第一の人たらむとし而して毎毎に理想と現實との衝突に逢うて悲觀し憤懣したりし也しかも此く自ら百練の問題を解決し盡くして遂に悟徹の妙境に入る豈偉ならずや本書はこの王陽明の人格を主題として其の實生活と學說とを併叙し依つて以て凡人が如何にして哲人たるを得しかの歷程を明にし吾等が修養の範としたる者なり恐らくはこれ王陽明に關する凡百の著書中最も嶄新にして且つ最も精細を極めたる者たらむ

●**王陽明** 定價一圓五十錢 郵税金十二錢

●**淨土教發達史論** 定價金六十錢 郵税金六錢

橋本勝先生著

第三高等學校教授 文學士 野々村直太郎先生著

●**宗教と倫理** 定價金五十錢 郵税金八錢

正にこれ新宗教論なり新道徳論なり而してまた實に人生問題最後の解決書なり世の靈と肉との饑渴に悩める者知と信との衝突に苦しめるもの若しくは夫の舊宗教と舊道徳とに厭けるものは速に來つてこゝに無上の安樂地を見出せ。附録には二宮尊徳翁宗教論を評す

三宅尊嶺先生序 加藤咄堂 杉村楚人冠二先生跋
結城瑞明 齋伯 眞直 高島米峯著

●**廣長舌** 定價金七十錢 郵税金八錢

加藤咄堂先生曰く「米峯今胸中鬱勃の氣を呵して『廣長舌』一篇を著す其の旨は世事に疎なる學者輩の企て及ばざる所にして其の論ずる所は肉を刺し骨を通して當世人士の肺腑を刺る洵にこれ堂々當世の大文字」と
杉村楚人冠二先生曰く「米峯の文を屬するや一氣呵成にして而かも理路井然たり才華勃爛たり細穿たらざるなく微打たずんば已まず米峯の筆を執るや政治に涉り文藝に及び宗教に關し教育に係り趣味の廣汎に達つては誠や行くとして可ならざるを見ず」と
著者曰く「褒められて嬉しがる程の初心ならざれどもたゞ當世慣用の廣告手段はかくもあるべし」と

文學博士 村上專精先生新著

論

養

論

定價金壹圓 郵税金八錢

修養に關する著書古今東西を通じて汗牛充棟も亦ならずと雖もその理論を脱けるものは高遠に過ぎその方法を教ふるものは煩瑣に失し共に探つて以て吾人が日常の行動云爲に資するを離しとす今吾が村上博士の日常に見るありて古習實踐の芳範を辿り前賢研究の結果を收め有る規箴とするに足るべき名論金言は悉くこれを授引して依て以て極めて平易に修養の理論を説明し荷も機軸とするに足るべき善行美談は悉くこれを蒐録して依つて以て極めて明快に修養の方法を叙述す恐らくはこれ斯界未だあらざる精到完備の修養書ならむなり

界 枯川先生著

樂天囚人

定價六拾錢 郵税金八錢

此書は狂暴、不平、怨恨、嫉妬、残忍、無恥、悖逆を以て世に目せらるる社會主義者が人の子として親として夫として友として將た人類の一員として宇宙の一分子として如何なる態度を持するかを其獄中生活に於て卑直に露骨に赤裸々に發揮せる者之を一言にすれば社會主義者の安心を賭ける者……獄中生活の大膽なる告白……處も危険の恐なき快著也

加藤弘之先生序

加藤弘之先生序

高島米峯著

惡

戰

定價金八拾錢 郵税金八錢

加藤弘之先生曰はく「著者は新佛敎社にありて該雜誌に隨分奇抜なる論を吐き盡きには『廣長舌』を著して忌憚なく社會を罵倒し今又『惡戰』を著して倍々世を愚弄すされど世を憂へ國を愛する至情は自ら其中に溢流して居る蓋し青年立志の指針たるに足らん」と

著者曰はく「これ僕が半生の惡戰史なり父なく母なく學なく職なく殊に加ふるに資金なく後援なき裸一貫の青年が如何にしてこの生活難の世に處し來りたるかを語るは又以て現代青年諸君が新運命の開拓に資する處なきを保せざるべし」と

フエロホル先生原著

第三高等學校教授

文學士 平田元吉先生譯

死後の生活

定價金五拾錢 郵税金八錢

フエロホルは哲學史上特筆大書せらるる十九世紀の鴻儒にして實に今日の經驗的心理學經驗的哲學の基礎を置きし者たり「死後の生活」は此經驗的傾向の大哲學者が、現世の事實を基とし最高の詩的想像を發へ或は歸納的に或は類比的に未來生活を縱横に叙述したる詩と科學との靈妙なる融合なり氏の説を以てせば千里眼幽靈等の不可思議なる現象も容易に解釋することを得故に本書は親愛者を失ひし人死生の疑惑に苦しめる者の無二の慰藉となり一般の讀者に津々たる興味を配ら又學者研究者に豊富なる暗示刺戟を興ふるや疑ふ可からず廣く江湖の愛讀を望む

京洋大學講師 釋清潭先生著

名詩新釋

定價金五拾錢 郵税金六錢

本書、漢は唐宋元明清五朝の高僧に涉たり、和は虎關以後絶海巖堂に至る大凡七十餘人の名詩を新釋したるものなり、其詩雄渾なるもの高古なるもの典雅なるもの勁健なるもの婉麗なるもの清秀なるもの幽淡なるもの之れに悉く字解と韻法と階論とを付し平易を旨として深切を極む和漢高僧詩篇を釋論して此の如きもの恐くは破前なるべし

京都帝國大學 文學博士 松本文三郎先生著

彌勒淨土論

定價金壹圓 郵税金八錢

宗敎學上殊に佛敎史上理論實際の兩方面に涉り極めて重要なる地歩を占むるものは「淨土の思想」なり而して其半面は「彌勒淨土」の闡明によりて光輝を放てるも其他の半面は「彌勒淨土」の埋没によりて全然暗黒に歸すこれ豈佛敎史上の一大缺點にして又實に佛敎界の一大根柢ならずや松本博士多年の蘊蓄を傾けその專攻する學科の立脚地より「彌勒淨土」の由來淵源を詳論し博士の著書「極樂淨土論」と相待つて茲に佛敎の淨土思想研究は完璧を成せり何人か又此の新研究を味はずして恣に佛敎の淨土思想を談べんとするものぞ

文學博士 正治先生 関並推讀

宗敎大學講師 文學士 矢吹慶雄先生著

阿彌陀佛の研究

定價金四拾錢 郵税金十二錢

上下二千歳の史實と高僧悟徹の事蹟とを有し現に宗敎的活力を繋いで佛敎の他力方面を代表するものは實に阿彌陀佛の信仰なり阿彌陀佛とは何ぞやその信仰本來の面目を明にしたるものは本書なり世の他力往生の信者は勿論夫の原始佛敎の自力主義が如何にして他力佛敎を生ぜしか慈悲本願の救主他力回向の信仰は佛敎史上如何なる旨趣を有するかを知らむと欲する者も亦此書を讀まざるべからず

文學博士 三宅謙二郎先生著

◎小泡十種 定價金四十五錢 郵税金八錢

博士の學殖富強に博士の見識卓越に博士の文章非凡なる世既に定評あり今此學と識と文とを傾倒して此著を作す政治を論じ宗教を説き文學を語り人物を評す其の筆の向ふところ流れては浩渺盡きざる大河となり朕じては縹緲靡靡なき飛沫となる小泡か激濤か益し近代稀有の快著也

曹洞宗大學講師 忽滑谷快天先生著

◎達磨と陽明 定價金七十五錢 郵税金八錢

本書は王禪二學を比較對論して禪學の精髓を發揮すると同時に王學の眼目を豁開して餘蘊なく進徳の工夫修養の方法爲學の用心精神鍊磨人格養成等一として備はらざるなし況にこれ精神界の指南針にして亦實踐道徳の指導者たり。

文學博士 井上圓了先生著

◎西航日録 定價金三十錢 郵税金四錢

是れ井上博士の洋行土産也歐米に於ける教育宗教文學政治經濟等の現況は博士が周到なる觀察と極妙なる文辭とによりて此に隨動す征露の戰爭に於て武名を世界に輝したる日本の國民は又世界の大勢に通ぜざるべからず唯ふ一本を購へ

東北大學總長 澤柳政太郎先生著

◎退耕錄 正價金一圓 郵税金八錢

著者の序文に曰く「官遊十數年其間人よりも多く云ひ多し、論じたるも尙ほ疎ふくるゝ心地を忍んで言はずりし者多し」と知るべし本書は先生が實際上百般の問題に透徹して滿腔の所感を披瀝したるものなるを諷刺あり敬酬あり感慨あり痛罵あり氣焔あり理窟あり警拔にして透徹せる觀察あり大膽にして隱健なる斷案あり言はんと欲する所は言ひ盡くして毫も時勢に阿らず誠に憂國醫世の大文字なり經世家教育家宗教家及び現代の青年諸君は須く一讀せざるべからず

スタンフォード大學總長 ジョロダン博士原著

◎人物の修養 定價金五十錢 郵税金八錢

澤柳前文部次官特に長文の序を草す其の一節に曰く「ジョロダン博士は當今世界有数の學者にして北米第一流の人物なり且外國人中最も濃厚なる同情を我日本及日本人に寄せらるゝ紳士なり我國人がその所説その意見を知らむと欲するの情進に乏を知ることに依て利すること尠からざるは言を待たず……我日本人は本書に對し尊敬と同情とを表し以て博士に報ゆることあるらんことを希望す」と

フイナリ、フアイト氏原著 東洋大學講師 中島徳藏先生述

◎批評倫理學原論 定價金五十錢 郵税金八錢

フイナリ、フアイト氏の「倫理學原論」は快樂論と觀念論との二大立脚地の調和を試みしものにして理論的に卓抜のみに富みしのみならず又當時社會の實際問題を捉へてこれに明快なる解答を與へし一新好著なりこれを以て吾國にても大島學士の翻譯によりて已に紹介せられつゝあり然るに譯文に慣れぬ讀者は往々その眞意を解する能はざるを遺憾とし是が解説を求むるもの少からず仍て一々質疑解答の勞を省かんため各篇各章の順を追うて殆ど各節毎に其の大意を取り最も簡易に明瞭に讀者をして原著者の意を窺はしめむと力め且つ歐通筆録の際意見を以てこれに批評を試みたるものは本書なり 述者敬白

文學博士 松本文三郎先生著

◎宗教と哲學 定價金四十五錢 郵税金八錢

本書全篇十有餘章まづ宗教と哲學との根本問題に起し宗教と道徳研究と信仰等次第を逐うて遂に健全なる宗教の基礎は哲學的論據にある事を闡明す蓋し病弱なる現代思想界は此書に因りて始めて元氣の回復を求め得むなり

東洋大學講師 柳澤源先生著

◎寒山詩新釋 定價金五十錢 郵税金八錢

是れ佛か是れ仙か是れ狂漢か得て解すべからざるものは寒山詩なり是れ韻語か是れ詩語か是れ佛語か得て解すべからざるものは寒山詩なり宜なり千古の疑團牢固として抜けざることや著者精深雄大の學と才とを以て一筆勾劃彼が面目ここに於てか露出す寒山詩神を知らんと欲するものは須らく此書を以て指南車となすべし 文學士 渡邊又次郎先生著

◎最新論理學 定價金一圓 郵税金拾貳錢

本書は斯學の泰斗たる著者が學界の缺陷を補はん爲めに特に選述せる所に係り所論の明晰にして内容の整頓せる簡潔平易なる叙述の中に學士の卓見を洩したる所他に比を見ざる老熟の大著なり又欄外に重要なる題目を掲げ卷末に英語を對照せる詳細の索引を附したるが如き讀者の便益之に過ぐるものなかるべし 北條蓮華師著

◎眞宗教義 定價金二圓 郵税金十二錢

加藤晴堂先生著

●原人論講話 定價金六十錢 郵税金八錢

佛敎典籍多しと雖も大小二乘の教旨を網羅し其要を摘み辨を抜きて優劣を列じ深淺を論じ人生の根本たる生死の問題を解決し之れを儒道二敎の教義と比較して佛の粹然一頭地を抜く所以を明にせるもの此の原人論に過ぎたるはなし、本書は著者が獨得なる通俗平易の筆を以て叮嚀懇切に此の原人論を講述し且つ近代思想を以て批評を加へ、體面には添ふるに古人の解説を以てし、たれば佛敎の大意と人生問題の解決とは此の書によりて知ることを得べきのみならず本書一巻を讀すれば原人論に關する古來幾多の註釋書を悉く備ふるにも勝れるものあるなり。

幸徳秋水が最後の文章 ○破天荒の奇著

●基督抹殺論 定價金七十錢 郵税金八錢

一代の論客として知られたる幸徳秋水も誤つて天地を容れざる大逆無道な企てをや遂に斷頭臺上の露と消え去りぬ其鐵窓裡に呻吟せるの間此の書が著す所論痛絶快絶行文雄絶情絶殊に其史的人物としての基督の存在を非難し十字架が生殖器の表形たるを斷ぜんとし、完膚なきに肉を剝ぎ、世界の大聖なるものを呼ぶ幸徳秋水死に臨みて其書を抹殺し了せむとす抑々何の思ふ所あつて然るか多し語るに忍びざるなり秋水自ら曰はく「是れ予が最後の文章にして生前の遺稿也」と歎て滿天下の僧讀を驚ふ

島田三郎先生序 高島米崇著

●理想的商業 定價金廿五錢 郵税金四錢

商業とは畢竟物を買ひたいといふ人に賣つて遣はすといふほどの事なり買ひたいとも何とも言はざるものに賣らむとするが如きは是れ豈無理の甚しきものならずや今の商人平氣でこの無理を行ふこと、に於てか百幣起る夫のお客様といふもの、無暗にのさばり返るも是がためにして商人の矢鱈に侮蔑せらるゝも亦實に是がためなり

賣るに法あり買ふに道ありこの法を説きこの道を教へ以てお客様といふもの、立場を明にし以て商人といふもの、位置を高め而して買ふものにはうんと買へと勧め賣るものにはしたま賣れと告ぐるものは即ちこの書なり但し讀みたいといふ人に讀んで貰はふがために書いたものにしてもとより讀まうと思はないもの、にまで強ひて讀ませやうといふやうなそんな不所存は毛頭これなきものなり

高島米崇著

●學生東洋史 定價金十三錢 郵税金二錢

著者曰はく「形に於ては恐らく既列東洋史中の最も小なるものたるべからむも學生を養ふる點に於ては或は最も大なるものあるべきを信じて疑はざるなり」と

新公論社編 ○附録學生録夏法

●男女學生氣質 定價金二十錢 郵税金二錢

此書は坪内雄藏、橋橋潤子、幸田露伴、村上專精、三輪田眞佐子、佐治實然、山崎ふさ子、奥村五百子、鳩山春子、本多庸一、南條文雄、小杉天外、山縣徳三郎、前田徳愛、井上圓了、島田三郎、松村介石、磯邊彌一郎、戸川殘花、鈴木宗太郎、石黒忠政、運探原水、中川謙次郎、南岩倉具威、棚橋一郎、寺田男吉、フオスター、坂本盛徳、加納久宜、古川流泉、田中治六、加藤晴堂、筑野黄洋、中島徳藏、下田次郎等の大家が現代男女學生の長短兩方面を觀察しその長所を助けその短所を補ふべき方法を示されたるものなり

文學博士 村上專精先生著

●改訂自信錄 定價金六十錢 郵税金八錢

これ博士の新著にして又實に博士が信仰の告白なり言々己の實験を語り句々心の奥底を披露すまづ筆を「人生の目的」に起して「目的の成否」を明にし「實在と我れ」「佛陀と我れ」の關係より「自力と他力」の異同に及びて之を結ぶ五章廿七節説いて至らざるなく述べて盡さいるなし進歩せる佛敎學者の見解は此の書によつて窺ふべく敬虔なる佛敎信者の態度は此書によつて知るを得べし

文學博士 村上專精先生著

●誠のしるべ 定價金四拾錢 郵税金八錢

誠は實に人生の基礎をなすものにして政治も實業も宗教も道德も教育も凡て此の根底の上に立たざるべからず今や村上先生古今東西の事例を引いてその然る所以を詳記せらるる荷も誠を得得して眞の人たらんと欲するものは此書を讀め

文學博士 村上專精先生著

●女性訓 定價金四十錢 郵税金六錢

本書の内容は天職中席質素廉潔節操の五訓を以て女子座右の箴言となすにあり多年女子教育に經驗を重ねたる村上博士はよく女性の缺點を摸み來りて之を訓誡するその親切實に至り盡せり凡そ世の淑女たらむと欲する者は必ず其の座右を離すべからざる珍書なり

文學博士 村上專精先生編

●原人論 定價金十二錢 郵税金二錢

●註科大乘起信論 定價金十六錢 郵税金二錢

右の二書は共に筆記體入れ等便せんがため本文の下下に空白を存し置きたれば學校の教科書學會の讀本として最も適當なり

ア、エフ、スタンツワ、先生原著
エル、ピツシエル先生増訂
マク、ス、ユナ、博士原著

梵語入門 定價金八圓
郵税金二圓

歐亞言語の源泉を窮めんと欲する人は梵語を學ぶべし
宗教の千態萬狀を知らんとする人も梵語を學ぶべし
東亞文明の根柢を探らんとする人も梵語を學ぶべし
我邦一部人士の梵語を學ぶ者あるも彼等は成な歐語の梵文
典を使用すされど歐語梵文典を用ひんば第一歐語を學
ばざる可からざる不便あり第二價格低廉ならず以上二
種の缺點を補ひ梵文典に指を染むるの初歩たらしめむ
がために創めて本書を公にす自今以後苟も英字母二十
六を讀み得る人は僅少なる代價を拂つて悉く梵語を學
ぶを得べく梵本を讀むを得べし

マクス、ユナ、博士原著
佛敎大學講師 文學士 清水友次郎先生譯

宗教學綱要 定價金五圓
郵税金八錢

清水學士佛敎大學に教授として宗教學を講ずるや近代
稀有の宗教學者マクス、ユナ、博士の原著を講本と
し隨つて譯し隨つて致ふ今これを補訂潤飾して以て世
に公にす蓋し邦文の宗教學書としては唯一無二の良書な
り。

文學博士 高楠順次郎先生序 阿彌陀佛先生著

悉曇阿彌陀經 定價金八圓
郵税金八錢

文學博士 高楠順次郎先生序
曹洞宗大學講師 立花俊道先生著

巴利語文典 定價金八圓
郵税金八錢

獨逸哲學博士 ボール、ク、ラス先生著
學習院教授 鈴木大拙先生譯

阿彌陀佛 定價金五圓
郵税金六錢

阿彌陀佛とは何ぞや是れ佛敎の根本問題也
ケ、ラス博士の彩筆を揮ひ殆ど小説的結構を以て通俗に之が解
釋を試む宜なりその歐米歐書界に好評噴々たるや弊
社に十年博士と居を同じうし最も博士と親善なる大
拙先生を煩はして此和譯を得たり豈啻に佛の有無に惑
ひ心の不安に悶ゆる人のみこれを讀むべしと言はむや

東洋大學講師 境野黃洋先生著

補聖德太子傳 定價金五圓
郵税金八錢

佛敎史家として夙に名ある境野先生が其の燃犀なる
史眼と圓熟せる文才とを傾倒して日本文明の開拓者日
本佛敎の教主たる聖德太子の事蹟を叙述し併て當時社
會の政教習俗の特色を發揮したる名著にして文章の明
快論斷の適確實に他に其の匹を見ざる所

高島米峯著

一休和尚傳 定價金四圓
郵税金八錢

文學博士 淺藤隆吉先生著

孔子傳 定價金四圓
郵税金二圓

現代漢學界の巨擘淺藤博士が深遠なる識を傾け偉大な
る筆を揮つて孔子に東亞の大聖孔子を傳すと言はば
敢て又別に時流の廣告的文字を列ぬるの要なかるべ
むも試に少しく言はむかその涉獵極めて廣汎にその材
料極めて豊富にその觀察極めて鋭利にその論斷極めて
正確なるは勿論殊に各編各章到處に博士獨特の奇想と
先哲未嘗の結論とに接するを得るは洵に本書の特色と
して天下に誇稱するに足るところ蓋し本書一たび出て
孔子に東洋人の孔子に對する二千年の迷妄謬見を打
破し肉あり血ある大聖孔子の眞面目は紙上に躍如た
らむ或くは世の東洋學術の精髓を味はむと欲する人靈
界の偉人に接して修養の資を得むと欲する人悉く來つ
てこの空前にして而して唯一なる「孔子傳」を讀め

加藤唯堂先生著

宗教的修養 定價金十二圓
郵税金二圓

文學博士 高楠順次郎先生序
曹洞宗大學講師 立花俊道先生著

巴利語文典 定價金八圓
郵税金八錢

獨逸哲學博士 ボール、ク、ラス先生著
學習院教授 鈴木大拙先生譯

阿彌陀佛 定價金五圓
郵税金六錢

阿彌陀佛とは何ぞや是れ佛敎の根本問題也
ケ、ラス博士の彩筆を揮ひ殆ど小説的結構を以て通俗に之が解
釋を試む宜なりその歐米歐書界に好評噴々たるや弊
社に十年博士と居を同じうし最も博士と親善なる大
拙先生を煩はして此和譯を得たり豈啻に佛の有無に惑
ひ心の不安に悶ゆる人のみこれを讀むべしと言はむや

東洋大學講師 境野黃洋先生著

補聖德太子傳 定價金五圓
郵税金八錢

佛敎史家として夙に名ある境野先生が其の燃犀なる
史眼と圓熟せる文才とを傾倒して日本文明の開拓者日
本佛敎の教主たる聖德太子の事蹟を叙述し併て當時社
會の政教習俗の特色を發揮したる名著にして文章の明
快論斷の適確實に他に其の匹を見ざる所

ウキヤマ、ハイド氏原著
澤柳政太郎氏序 鈴木泰太郎先生譯

自己測量 定價金五圓
郵税金八錢

これ米國に於ける最新の處世術なり最新の修養法なり
而して又實に最新の記術法に成れる名著なり今移して
以てこれを我が邦現代の社會に購めむとするもの他なし
吾人が無徳無業の樸朴人格完成の砥礪立身處生の嚮導
社會道徳の軌範として直に得難き大教訓なるを以てな
り來れ青年期等がこの生活離の世に處して新しき運命
の勝原を開くべき鍵はここにあり

ペーグマン先生原著
杉村 樞先生譯

強肺術 定價金四圓
郵税金四錢

肺病を恐るゝものは強め肺病に罹れるものは強め歐米
に於ける最新式の強力養成法を讀め此書に六の特色あ
り
第一、時間を要せざること 第二、費用を要せざ
ること 第三、場所を要せざること 第四、努力
を要せざること 第五、言文一致なること 第六、
總より假名付なること
故に男子は勿論婦人小兒と雖も容易に實行し而して確
實に其功を收め得べし

黒岩周六先生講義

人生問題

定價金五十錢 郵税金八錢

人生とは何ぞや是れ千古の疑問なり哲人之を説き宿學之を論じて而して懷疑の靈益々密に苦悶の人愈々多からむとす然るに現代思想界の泰斗黒岩先生自ら人生問題に透徹して疑問の源泉を探り大に其深趣を得て茲に此書あり叙ぶる所神の有無に始まり人生の悲觀樂觀に終る眞に天籟の妙音なり世の悶ある人疑ある人速に來つて此福音に接せよ庶幾くは平穩と満足と活力とを得て温く且つ光ある人生に開啓することを得ん

東京帝國大學講師 文學士 常盤大定先生著

釋迦牟尼傳

定價金七十錢 郵税金八錢

佛傳の大部を占むるものは神秘なる傳説なり世人或は直にこれを抹殺して顧みざるべしと雖も是等の傳説が古來深く佛徒の頭腦を支配せるより見ればその裏に何等かの意識を有せざるはなかるべし此著は主として是等の傳説の起原を尋ね意義を究め南北兩派大小兩系の相違を比較對照し以て此の千古の大聖釋迦牟尼佛の眞面目を傳へむとするに在り著者常盤大定先生夙に篤學能文を以て聞え殊に佛傳の研究に従ふものこと二年あり此著の價值蓋し推知し得む

慶應義塾大學講師 曹洞宗大學講師 忽計谷快天先生講義

和名士參禪集

定價金五十錢 郵税金八錢

本書は日本に於ては後醍醐天皇花園天皇龜山天皇の聖帝より北條時頼北條時宗武田信玄上杉謙信前田利家楠正成等古今の名臣支那に於ては唐の宣宗皇帝宋の太宗皇帝等の帝より黃山谷蘇東坡白樂天張無能張休等の碩學が參禪せる佳話を蒐め且つ和漢禪匠に關する逸話美談を合せて之に批評を加へ學道の正路を示し在家參禪の資糧に供する者にして讀者をして坐ながら古今の鴻儒碩學と禪を商量し名僧大徳の紺鏡に接するを得し

前外務大臣 伯爵 林直閣下策譯

修養の模範

定價金七拾錢 郵税金八錢

家庭では父母が子供にする話の種に困り學校では教師が生徒にする話材の陳腐なのに窮し寺院や教會では居士が引用する興譚の乏しいのに窮り而して青年は讀んで自修の資とするに足る程の書籍の少ないのを歎いて居る著者これを愛へ書を書き毎に精神修養の模範とするに足るやうな美談逸話を翻譯摘錄して遂にこの書を成すに至つたのである弊社今こゝに世の宗教家教育家及び父兄青年諸君の前に此の書の發行を報告することとなつたのは實に無上の光榮である

堺 利彦先生譯

ルソー自傳 赤裸の人

定價金九十錢 郵税金八錢

佛國の革命はルソーの「民約論」によりて點火せられ日本の教育界はルソーの「エミール」によりて啓發せらる波瀾重疊神出鬼没の彼が生涯は彼自ら大膽にこれを告白して餘すところなし今これを譯して彼が眞面目を傳へむとするものは達識能文の堺利彦先生なり一讀してルソー前に立てるの感を抱きしむ

加藤明堂先生新著

筆と舌

定價金七十錢 郵税金八錢

筆舌生活二十年の經驗を基として演説と文章との秘訣を語り模範を示したるもの

明楊起元評註 加藤明堂先生和譯

和維摩經評註

定價金七十錢 郵税金八錢

本書は明の楊起元が評を加へ註を施して斯經の哲理と文學とを闡明したるものを更に加藤明堂先生が平明暢達の文を以て之を和譯し傍訓を附して通讀會解に便ならしめしもの世の佛を學び禪を談せむと欲する者には勿論講習本として亦最適當なり

「無我愛」首唱者 伊藤證信先生著

新氣運

定價八拾錢 郵税金八錢

古い宗教や道徳はもはや現代の人々の光明とはならぬさればといつてまだ新らしい主義思想の一世を指導するに足るものは起らぬ此時に當りて断然傳習と教權との束縛から脱却し世の罵詈訕笑輕侮憎惡の中に立ち臆面なく忌憚なく赤裸々たる自己の所見を吐露して常に努力奮闘しつゝあるのが本書の著者である本書は主眼告白、評論、人物、問答の五篇から成立つて居る全篇の趣旨は要するに政治法律の基礎と宗教道徳教育の根柢と産業經濟の原動力と學問知識の源泉と健康衛生の捷徑と娛樂技藝の根本と天地自然の道理とが悉く直截簡明なる無我愛の根本眞理の上に横はれるとを説示し以て混沌たる現代の思想界に一道の新氣運を誘導せんと試みたるものである

加藤弘之先生序

境野黄洋君跋
渡邊海旭君跋

惡戰

四六版 奇裝
定價金 八拾錢
郵税金 八錢

加藤弘之先生

曰はく「著者は新佛敎社にありて該雜誌に隨分奇抜なる論を吐き棄さには『廣長舌』を著して忌憚なく社會を罵倒し

今又『惡戰』を著はして倍々世を愚弄すされど世を愛へ國を愛する至情は自ら其中に溢流して居る蓋し青年立志の指針たるに足らん」と

著者曰はく

「これ僕が半生の惡戰史なり父なく母なく學なく識なく殊に加ふるに資金なく後援なき裸一貫の青年が如何にしてこの

生活難

の世に處し來りたるかを語るは又以て現代青年諸君が

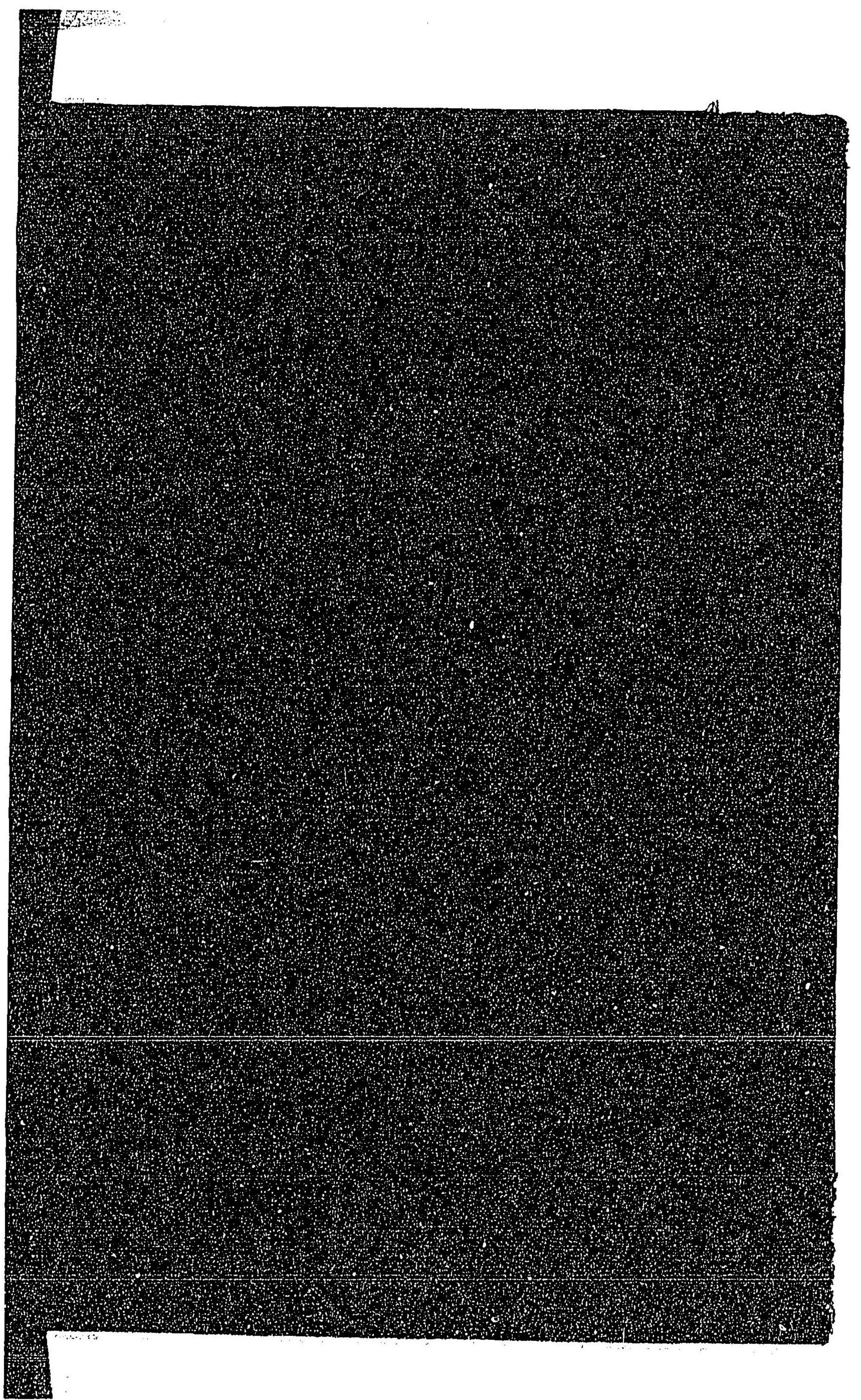
新運命の開拓

に資する處之なきを保せざるべし」と

332
239

4

332
239





022345-000-8

332-239

南半球五万里

井上 円了 / 著

M45

ADA-0880



井上 円了

